

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	香取市都市機能集約化計画												
計画の期間	平成29年度 ~ 令和03年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	香取市												
計画の目標	中心市街地への都市機能の集約と、歴史的資源と調和した周辺環境整備により、市街地の活性化を一体的に推し進め、市内・市外から人を集め、中心市街地に賑わいを創出するとともに、高齢者から子ども達まで、まちなかに安心して楽しく住み続けることのできるまちの実現を図ることで都市再生を目指す。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,548	A	1,548	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画的成果目標(定量的指標)	定量的指標の現況値及び目標値		
		定量的指標の定義及び算定式		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値 (H31末)	最終目標値 (R4末)
1	公共施設利用者の満足度点数を10%以上アップする。 市民意識調査の調査項目中「市の公共施設のサービスは十分である」で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した市民の割合を調査する。	188%	200%	288%
2	駅周辺地区空き店舗数を30%削減する。 駅前商店街における空き店舗数を調査する。	13件	13件	9件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																					
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H29	H30	H31	R02	R03					
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	香取市	直接	香取市	-	-	都市再生整備計画(佐原市街地地区)	公共施設、バス拠点整備事業 43ha	香取市						1,548		-		
		事業実施期間平成29年度～令和4年度																			
												小計						1,548			
											合計						1,548				

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
整備計画の策定主体の所管部署において事後評価を実施する。内容については、都市再生整備計画事後評価（佐原市街地地区）庁内検討会で審議後、有識者の意見聴取を行い、決定する。	令和5年9月
	公表の方法 香取市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	みんなの賑わい交流拠点コンパスが整備されたことから、整備前と比べて、市民の公共施設のサービス満足度が1.7%増加した。また、駅周辺地区空き店舗数については、削減することができなかったものの、整備前と比較した店舗減少率が、市内平均で10.4%であったところ、駅前商店街地区は、4.5%に抑えられていたほか、新規店舗も13店舗あった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	みんなの賑わい交流拠点コンパスの整備により、市内全体の公共施設の整備は十分であるとする住民は増加したが、他市町と比較すると充実していないとする住民が未だ多い。また、休日の小野川周辺来街者へのアンケート調査では、貸し切りバスでの来街が減少し、鉄道での来街が増加。初めて訪れた方が微増、4回以上の方は減少している。来る前の印象点、来た後の印象点はともに上昇している。事業効果により、まちの魅力、満足度が上昇している。加えて、高速バスの乗降者数は、コロナ禍の影響により、令和2年は減少したが、令和4年にかけて上昇に転じている。
特記事項（今後の方針等）	
コンパスの利用促進、来街者の滞在時間の増加、定住人口の維持、若者の市外流出対策、中心市街地の活性化及び歩行空間の快適性の向上を図るための施策を実施する。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	公共施設満足度		
	最終目標値	288% ^{〇〇}	コロナ禍の中での供用開始から、事後評価まで数か月しかなかったため、満足度は向上傾向にあるものの、十分に評価に反映されていないと考えられる。
	最終実績値	205% ^{〇〇}	
2	駅前商店街の空き店舗数		
	最終目標値	9件	コロナ禍により店舗を休業する状態や看板のない店舗数があるためと考えられる。
	最終実績値	20件	